

■総社市総合交通戦略(素案)パブリックコメントで寄せられたご意見の要旨と市の考え方について

意見の要旨等	市の考え方
○交通弱者について 今後の高齢化社会を迎えるにあたり、運転免許証を返納して自動車が利用できない人の移動手段をどのように確保するのか。	自動車を利用できない人の移動手段について、本市として総社市新生活交通「雪舟くん」を運行しており、今後の高齢社会に対応できるよう、関係事業所等と雪舟くんの改善見直しの協議を進めていくこととしています。
○道路ネットワークの構築 市内移動の円滑化と市街地の渋滞緩和では、安心・安全な交通環境の確保が重要です。このためには、市道の整備拡充が求められます。地域のニーズに対応して生活道路を充実して移動手段の幅広い利用ができる通行帯を検討することが必要です。	公共交通については、自動車交通も重要な役割を担うことから、道路ネットワークの構築は非常に重要です。市道の整備拡充など、地域の利便性向上や渋滞緩和のために必要な公共事業は着実に進めるべきものと考えております。特に、市内の南北道にはボトルネックとなっている箇所があり、通行の流れも円滑とは言えないため、南北道を重視した道路ネットワークの整備を推進していきます。
○地区内の要望事項 交通量の増加する国道バイパスに並行して移動できる、道路として、国道バイパス北側に東西の市道バイパスを要望しています。県立大学周囲の開発計画と合わせ、鬼ノ城交番から西に旧給食調理場付近までの移動空間整備です。	現時点で事業の確約はできませんが、要望されている路線については、地域の皆様にとって、農業や生活道路としての役割をもつ必要路線と認識しております。
○LRTのこと JR桃太郎線をLRT化する計画が取りざたされています。服部駅と東総社駅の間に新駅の話がでています。旧給食センター付近が適地と考えられます。このことを考慮した道路の構築を合わせて検討進めることが必要です。 さらに、線路を横断する踏切については、線路付近の生活道路として利用していますので、車両の通行可能を確保する必要があります。特に、服部駅踏切と観音寺踏切の間にある深町踏切周囲には、住宅が増加しており、車両の踏切通行について、関係機関と協議し、地域住民の要望に答えるよう検討を推進するように取り組むことです。	道路の構築は、今後、新駅の配置や駅周辺の交通状況、まちづくりなどを勘案しながら検討していくこととなります。また、深町踏切の改良等を行う場合は、近接踏切のうち、地域住民の通行に特に支障を及ぼさない踏切について、統廃合を進める必要があります。

意見の要旨等	市の考え方
○雪舟くんについて 私が住んでいる服部地区の町内では、雪舟くんの必要性はありません。利用している人が見当たらず、高齢者も自転車等の移動手段を用いています。 雪舟くんは、市内の川西地区・昭和地区・阿曽地区等の中心部から遠い地区の交通機関です。 私の地区には、道路網の交通体系を構築することが必要です。	服部地区の雪舟くんの利用率は、川西地区、昭和地区及び阿曽地区に比べると低い状況です。ただ、雪舟くんを利用されている方も少なからずいらっしゃいますので、利用しやすいように運行システムの改善を図っていくこととしています。
公共交通道路整備は、交通の利便性向上があるだけでなく、高齢者や障がい者をはじめ市民全体の健康増進、医療費の減少、商業や観光、地域の活性化などに良い効果をもたらすと言われており、将来的に取り組む課題としてはどうか。	健康増進につながる幹線道路・歩行者空間を整備していくとともに、都市内移動の円滑化を図るため、道路ネットワークを考慮した道路整備を図っていくこととしています。